

- 1 会議名 令和 7 年度第 3 回学校運営支援協議会
- 2 開催日時 令和 8 年 2 月 2 5 日（水）14 時 00 分から 15 時 30 分まで
- 3 開催場所 磐井中学校校長室
- 4 出席者
 - (1) 委員 入駒 智、菊池達也、小野寺邦芳、小野寺康光、澤田直哉、加藤 清
 - (2) 事務局 須藤 淳、立花公樹、笠神康史、門下希理子、菅原隆宏
- 5 議 題（協議）
 - (1) 報告（学習面・生活面）
 - (2) 学校評価について
 - (3) 令和 8 年度学校経営方針について
 - (4) その他
- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴人 0 人
- 8 議事内容
 - (1) 報告（学習面・生活面）

<質疑・ご意見>

委員：生徒だけではなく、保護者も対象にしてクマ被害の学習会をしてはどうか。

委員：千田典文さん（岩手県環境アドバイザー、生物の先生）を講師にお願いをしてはどうか。

委員：自転車のマナー取り組みの今年度の成果とか課題は何か。

事務局：3 年生を対象に交通課の方を講師に、講演をしていただいた。次年度から罰則の対象になるということもあり、真剣に話を聞いていた。

事務局：自転車の鍵かけの指導に関しては、今年度は生活委員が頻繁に点検を行い、ほとんどの生徒がしっかりと施錠をしている状況である。

委員：休日型部活動に移行している、7 つの部活動を教えてほしい。

事務局：柔道、卓球男女、バレーボール男女、軟式野球、ソフトテニス女子の 7 つである。平日の普段の活動は顧問が指導し、週末の活動は保護者や地域で指導するというようなイメージである。

委員：小学生で、遅くまで好きな YouTube を見ている生徒がいる。動画共有サイトには、生成 AI で作成した嘘の情報も多いが、子どもでは判断つきにくい。子どもだけではなく、保護者も含めて勉強会を開いてはどうか。

委員：いじめの案件について、学年的な傾向はどうか。

事務局：どの学年も起こりうるが、1 年生は小学校 3 校から集まり、人間関係作りの段階で、ちょっと落ち着かないところがあったり、上手くコミュニケーションが取れない部分があったりして、いじめが発生しやすい傾向がある。逆に 3 年生の方では落ち着いてほとんど見られなくなる。

(2)学校評価について

<質疑・ご意見>

委員：普段の先生方の指導の賜物ということで素晴らしい評価ではないかと思う。ぜひ今後も同じような形で継続してほしい。

(3)学校経営計画について

<質疑・ご意見>

委員：経営計画についても素晴らしい内容だと思うので、ぜひ頑張って実践してほしい。

委員：キャリア教育の充実ということについて、人材の積極的な活用ということは、素晴らしいことだと思う。期待している。

委員：現市長も就任して4年になるが、岩手県の人口流出を防ぎたいと話している。小さな活動の積み重ねかもしれないが、やはり地域を愛する生徒を育ててほしい。自治体も情報を持っていると思うので、人材バンクに役立つのではないか。まちづくり協議会などの組織もあるので、情報を得ることができるのではないか。

委員：新入生の予定数が減るのは、附属中に入学するという解釈で良いか。

事務局：附属中だけではなく、小学校6年生が選ぶ中学校進学時の進学先が広がっているということである。例えば宮城県への進学など、これから何年か継続してあると思われる。附属中への進学者数は大きいことは大きいですが、それだけではない。幅広く見れば、スポーツ的なことが中心ではなく、教科の学習や指導に関してということで選択する家庭が、年々増えている。

委員：地域の偉人を小中学生はほとんど知らない。授業で時間があれば学習してもらえればと思う。博物館の職員に、指導をお願いするのがよいのではないか。

事務局：3つの小学校で学んできた学習内容を踏まえて、中学校での限られた時間の中で共通して取り組む内容を絞り込んでいきたいと思う。いろいろな人に関係してもらいながら進めていきたい。例えば、3.11についても3つの小学校でそれぞれどういうことを学んできているのか、かなり違うのだが、中学校ではその上で3年間積み重ねていきたい内容がある。

委員：今までと大きく違ったところで「人権感覚の育成」という項目がある。どうしてこれを今回入れようとしたのか。

事務局：人権に関わって学習していないわけではないが、これまで言葉で明確に計画に位置付けてはなかった。もっと人権について意識した話題を我々もしなければならぬし、子供たちもそういう視点を持たないと、このスピードの速い世の中で生きていけない。よりよい生活をいろんな人と関わってやっていくのは難しい時代になってきた、とっていた。生徒指導主事と法務局の方とで講演会を企画し、12月に人権について学ぶ機会をもった。その時の生徒たちの反応が非常に印象的だった。生徒が発見した言葉が非常に多く、人権というものをきちんと捉えて取り組んでいく大事な時期であり、学校生活の基盤として大事にしたいと考えた。人権感覚の育成ということで、講演会や、教科の学習もあるだろうし、まずはそういう人権感覚を養うところから始めていきたいと思う。

委員：特別支援教育について、文科省が新しく方針を打ち出してきているということか。

事務局：本校は特に特別支援学級の在籍生徒が多いので、特別支援教育に対する感覚を先取りしてしっかりと学びたいと考える。本校にはさまざま研修会はあるが、特別支援教育についてはなかなか学ぶ機会がないので、研修の場を設定しようということである。

委員：特別支援学級への入級はどのようにしているか。

事務局：まずは観察から始め、その後、実際に検査を受けてもらい、数値化したデータをもとに保護者と相談を行う。その際、この生徒にとって一体どういう環境で学習するのがよいのかについて、相談を行い、最終的な選択を行う。

(4)その他

<質疑、意見>

委員：中里まちづくり協議会で、カレンダー作成するために、学校の年間行事を知りたい。

事務局：4月に最終決定だが、現段階での計画を提供する。

委員：磐井中の生徒が横断歩道を渡ったあと、止まってくれた車に一礼し、その後、近くにあったお地藏さんに手を合わせていた場面に遭遇した。良い光景だと思い、是非とも伝えたかった。

9 担 当 磐井中学校 副校長 立花公樹
電話 23-5233